

# ～生活道路の除排雪について 市民と共に考え・行動する～ 『地域と創る冬みち事業』の推進について

札幌市建設局管理部雪対策室

## 1. はじめに

札幌市は、北海道の政治・経済の中心都市であり、人口190万人を抱える大都市でありながら、北半球の同じ緯度の都市と比較しても降雪量が多い都市であります。

1シーズンの累計降雪量が6mを超え、最大積雪深約1m、最低気温も氷点下となる日が約130日余り続くという常に雪と寒さに直面しております。

この札幌市において冬期の円滑な道路交通の確保は、快適な市民生活と都市機能の維持に欠くことのできないものであり、このことから、平成12年に「札幌市雪対策基本計画」を策定し、除排雪を進めていますが、計画策定から概ね10年

を経過することから次期基本計画の策定作業を進めています。

近年は、雪対策を取り巻く環境が著しく変化していることから様々な課題が発生しており、中でも市民からの要望が多い生活道路の除排雪については、解決しなければならない課題が挙げられております。

このため、札幌市では、この課題解決に向け、市民と共に検討・実行する取り組みを平成18年度から「地域と創る冬みち事業」として開始したところであり、この成果を次期基本計画（平成21～30年度）へ反映していきたいと考えています。

## 2. 札幌市の生活道路除雪

札幌市の道路管理延長は5,421kmあり、その内、道路除雪延長は5,231km（除雪率96.5%）を行っており、特に、市民生活にかかわりの深い生活道

路の除雪延長約3,100kmを実施しており、その方法は、除雪ショベルによる往復掻き分けにより雪を両側へ置いていく除雪を行っております。

## 3. 取組の背景

札幌市が行っている市政世論調査では、「力を入れてほしい施策」の第1位が「除雪に関すること」であり、これは昭和53年の調査開始から31年連続で、その具体的事項は「生活道路の除雪」が特に多くなっています。

また、近年のシーズン中に寄せられる市民要望や苦情は、図1に示すとおり、平成16・17年度には4万件を超え、H18～20年度は少雪により件数は減少しております。

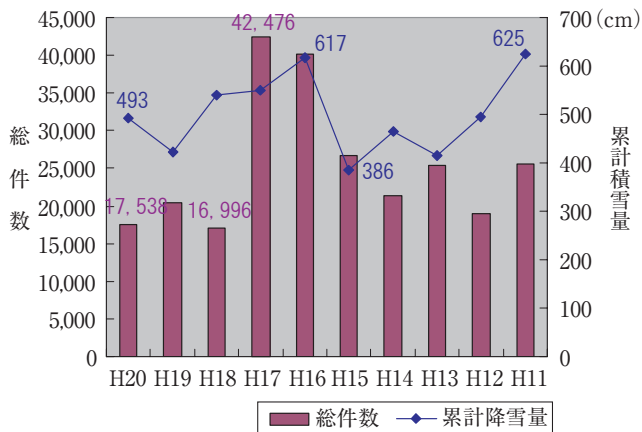


図1 要望・苦情件数の推移

このように除排雪に対する市民要望等に対し、その解決が強く求められているものの、近年の雪対策を取り巻く著しい環境変化により、解決できないのが実情です。

現状で、札幌市の雪対策が抱える主な課題を示すと、表1のとおりです。

表1 雪対策の主な課題

市民	玄関前の除雪が負担（高齢社会）
	生活道路の環境改善（交差点の見通）
	冬の生活ルールの遵守（迷惑駐車等）
除雪事業者	除雪機械確保の困難化（老朽等）
	作業従事者の高齢化
行政	雪たい積場確保の困難化
	市予算の減少傾向

札幌市では、平成18年4月に庁内組織である「雪に負けないサッポロづくり本部」を立ち上げ、これら雪対策の課題解決に向け、市役所一丸となって取り組を進め、「市民との連携」「雪たい積場」「除雪支援」の3つの課題について検討しており、この中で「地域と創る冬みち事業」は、「市民との連携」の主要事業として、生活道路の除排雪の課題解決に向けた取り組みとして位置付けられています。

## 4. 事業概要

### 1) 目的

この事業は、地域の方々との対話を通して、札幌市が実施する除排雪についての理解を深めるとともに、地域の課題を市民、除雪事業者、行政が互いに話し合い、その解決を目指すため、地域の実情に合った除雪手法等を検討することにあります。

そして、実行可能なアイデアについては、除雪体制・機械などを有効に活用し、現状予算の範囲で、三者役割分担の下、連携・協力し、出来ることから実践するこのことで、除雪に対する市民参加による満足度の向上を目指すものであります。

### 2) 懇談会の実施

懇談会は、情報共有が図りやすいことや、短時間に多くの方々と意見交換がしやすいことなどからワークショップ形式で行っており、その手順は、概ね、以下のとおりです。

#### ① 図表等による本市の除排雪実態の周知



写真1 懇談会の除雪説明

#### ② 地域の除雪課題等のきめ細かな洗い出し



写真2 グループ検討様子

表2 懇談会で多い要望と意見

多順	H18	H19	H20
①	地域内の雪置き場が減少	交差点の見通しが悪い(排雪要望)	交差点の見通しが悪い(排雪要望)
②	交差点の見通しが悪い(排雪要望)	地域内の雪置き場が減少	地域内の雪置き場が減少
③	モラルの低下(迷惑駐車・雪出し)	モラルの低下(迷惑駐車・雪出し)	モラルの低下(迷惑駐車・雪出し)
④	学校周辺(通学路)の除雪	凍結(ツルツル)路面の増加	凍結(ツルツル)路面の増加
⑤	消火栓・ゴミステーション周辺の除雪作業	不公平な除雪作業(左右均等など)	消火栓・ゴミステーション周辺の除雪作業
⑥	凍結(ツルツル)路面の増加	間口除雪への対応が負担	段差の発生(マンホール・除雪作業)

③ 現状の予算の範囲を原則に、地域が暮らしやすくなる除雪等の工夫を考案



図2 各グループの課題整理図

④ 実行可能なアイデアの実践

懇談会は、平成17年度(試行実施)から行われており、平成20年度までに411町内会で実施しております。(H20年度までに当事業対象の生活道路に面する1,877町内会の21.9%)

また、過年度に実施した町内会においても地域で話し合われた取り組みを継続して実施しています。

引き続き、今年度も80町内会での実施を目

指して取り組んでいるところです。

町内会から出された意見・要望・取り組み等について、情報誌を発行し地域へ回覧することにより、除排雪への理解度の向上と情報の共有を図っております。

地域と創る冬みち通信

この地域と創る冬みち通信は、「除雪についての市民懇談会」の内容を広く町内会の皆様にお伝えするために回覧しています。 発行日：清田区土木維持管理課 発行日：平成19年12月

第2回「除雪についての市民懇談会」を開催しました!

前回の懇談会では、札幌市の除排雪課題についての説明のあと、町内会地図を用いて、北野中央自治会、北野新町内会、南北野町内会それぞれの抱える除排雪課題について意見をいただきました。今回は、各町内会の除排雪課題の改善策検討案を報告し、町内会のみならず現在の予算範囲の中でできる除排雪改善策や実施方法について意見交換を行いました。

11月15日(木) 当日の開催概要

■札幌市より「第1回で洗いだされた課題についての検討内容」の報告  
■意見交換「除排雪課題の検討内容について」

開催日時…平成19年11月15日(木) 18:30~20:30 主催…北野中央自治会、北野新町内会、南北野町内会(第2日)、清田区土木維持管理課

当日は、「第1回で洗いだされた課題」の「改善策」について検討しました

意見交換の結果、以下の改善策を新しく試してみることにになりました!

除雪方法の工夫と地域の協力によって改善可能な課題

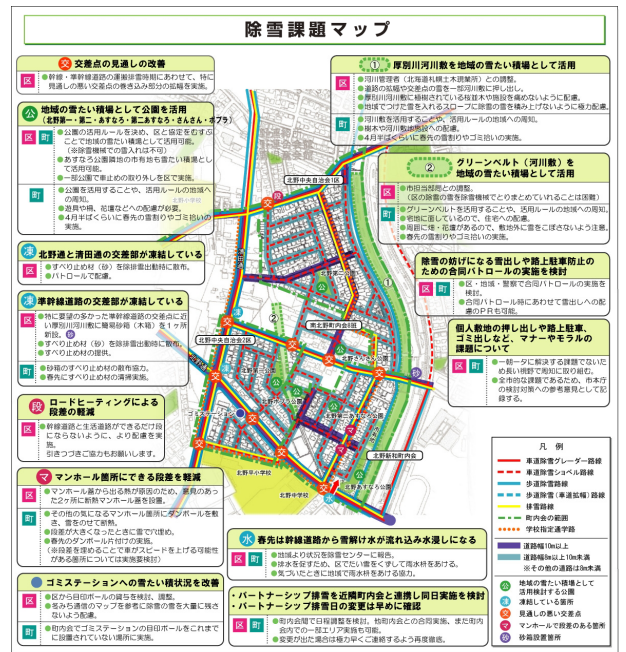
- 幹線・幹線道路の交差点は特に雪山が厚くなり、見通しが悪い。
- 地域の高い積雪として公園、特別川河川敷、グリーンベルト(河川敷)を活用したい。
- 幹線道路の交差点、北野第一公園の交差点は凍結している。
- ロードヒーティングの切れ目の段差が大きい。
- 事前に雪が水が流れ込み水浸しになる箇所がある。
- ゴミステーションに除雪の雪を多く積まれる。
- マンホール周辺は大雪が降りやすい。
- 雪出しや路上駐車禁止のため、合流パイプを完成できないが、パートナーシップ排雪を近隣地区と連携し一気に行きたい。

「改善可能な課題」の詳細と、その他の「解決が難しい課題」については裏面マップでご確認ください。

市の除雪方法の工夫と地域の皆さんの力をあわせることで、冬が快適になる可能性があります。皆さんのご協力をお願いします。

市民懇談会に関するお問合せは  
札幌市清田区土木維持管理課 担当:鈴木・今  
TEL 011-888-2800 FAX 011-884-6474

図3 情報誌表



長期的な検討が必要な課題、現在解決が困難な課題について

課題	回答
① 雪の多い地域に積雪の量が減っていない。(片寄せ)	● 片寄せ除雪改善後継ぎのため、区1~9町内会で「ワウエイ格」を実施する中で凍結防止をお待ちください。 ● 片寄せ除雪の削減のためには、引き続き「ワウエイ格」の削減を進めたい。
② 将来的には解決が困難な課題ではないか。	● 積雪量は、降雪量で1mあたり100mmほどかかると、新規設備は必要です。
③ 中長期的な、技術的な解決が難しい。	● 区だけでは解決が困難な課題です。市では「雪に耐えない」コンクリートの使用により、長期的な検討を実施中。解決の進展は定期的な報告をさせていただきます。報告の進展は定期的な報告をさせていただきます。
④ 幹線道路の凍結は対策が難しく、危険。	● 交通安全の「モラル」の課題。危険な状況は継続して対策が求められます。
⑤ 干渉や歩道やマンホール周辺の除雪が難しい箇所がある。	● 幹線歩道やマンホール周辺の除雪は、交通安全の観点から、町内会より要望をお願いします。 ● ミラーは現状の場所の凍結防止に有効であり、手洗の場所への設置は必要です。
⑥ きれいにした後に積雪の量が減らない。	● 多雪、積り、入道、たい風等の状況により、積雪が深くなる。積雪を減らすための対策として、積雪の量が減らないようにする必要があります。
⑦ 歩道除雪実施箇所が不足しているところがある。	● 歩道除雪実施箇所が不足しているところがある。

図4 情報誌裏

### 3) 各取り組みの実践（除雪作業・ルール等）

地域の課題解決に向けて地域住民・除雪事業者・行政の三者が話し合い、それぞれの役割分担を明確にし、その上で実施することとした新たな取り組みには、次のようなものがあります。

- ◇地域住民自らが行動するもの（事例1～2）
- ◇地域住民が除雪事業者または行政と協働で行うもの（事例3～4）
- ◇地域住民の意見に基づき、除雪事業者と行政が協働で行うもの（事例5）
- ◇親雪に関するもの（事例6）

#### (1) 地域住民自らが行動するもの

事例1：滑り止め材入りペットボトルを作成し、地下鉄駅周辺の歩道等に散布する。

札幌では気温が低いため、横断歩道や歩道が凍結して滑りやすくなるため、市民の協力いただき砂の散布活動を行っています。

- ・地域でのペットボトル作成



- ・小学校でのペットボトル作成



事例2：融雪時の雪割りや春の清掃を地域住民が行うことなどのルールを決めて、公園等を雪置き場として活用する。

- ・主に街区公園を利用し、今までに236町内会、444公園で実施しています。

冬期間の利用状況



春の清掃状況



(2) 地域住民が除雪事業者または行政と協働で行うもの

事例3：交通や除雪作業の妨げとなる迷惑駐車や道路への雪出しをさせないように、町内会と行政と一緒に啓発活動を行う。



事例 4：懇談会で話し合われた、地区の問題箇所及び作業等の実施状況を確認するため、三者による合同パトロールを行う。



(3) 地域住民の意見に基づき、除雪事業者と行政が協働で行うもの

事例 5：降雪 10cm で出動という従前の基準を 15cm に変更し、その出動回数が減少することで捻出される費用を活用して交差点排雪等を行う。



(4) 親雪に関するもの

事例 6：現在の雪対策の課題解決に終始することなく、将来の担い手となるであろう子どもたちを対象とした地域イベント（イグルーづくり、除雪作業車の試乗会）を開催し、町内会だけではなく、小学校やPTA を巻き込んだ取り組みも行っている。

・イグルーづくり



・除雪作業車の試乗会



## 5. 事業実施の検証（効果）

この事業が開始された平成 18 年度の気象状況は、ほぼ標準的な降雪であったものの、暖冬・降雪により積雪が少なく経過し、また、平成 19 年度の気象状況は、当初の少雪傾向が一転し、2 月後半からの連続した降雪により、2 月末には、最大積雪を記録するというものであったが、シーズンを通すと少雪となっている。

このような状況から、予定した取り組みが実施できなくなったり、仮に実施できても、その効果を確認するまでに至らなかったり、作業面での効果については、検証が十分でないケースもありました。

以下に事業実施町内会を対象に実施した住民アンケートによる、事業の取り組み効果や地域の満足度などについて示します。

## (1) 懇談会開催

懇談会の開催については、「良いこと」との回答が約8割程度を占め、この事業に対する理解度の高さがうかがえ、「市や除雪事業者に地域の状況を伝えることができた」「みんなで話し合えば良いアイデアが出る」という意見が多く寄せられ、さらに「一緒に考え、取り組んできた」という連帯意識も芽生えるなど、信頼関係が築かれつつあることがうかがえます。

また、生活道路における「車の走りやすさ」「歩きやすさ」「道幅」などに関しては、懇談会に参加した人の満足度がより高くなっているが、全体で見ると3割程度の人が満足しており、半数が不満と答えており、このことから、事業実施の効果を上げるためにも、地域への広報活動や協働による取り組みを実施していくことが重要であると思われる。

## (2) 各取り組みについて

各取り組みの効果は、それぞれ以下のとおりですが、地域住民の感覚的な捉え方、及びその年の気象状況によっても変わることが考えられ、継続した取り組みが重要と考えています。

### ① 公園等を雪置き場として活用

「良い方法」との回答が約8割と取り組みの評価は高いものの、実際に、公園に雪を搬入した人は2割以下と低い状況です。

これは、公園への雪搬入を希望する人が多いものの、実際に利用できる公園数が少ないことや公園周辺の人に限られること、また、そのスペースが限定されていることなどが原因と考えられます。

### ② 新雪除雪の出動基準の変更

交差点の見通し等を改善する費用捻出の取組

みのため、基準を変更した地区では出動回数が減少したことで「生活道路の車の走りやすさ・歩きやすさ」の満足度が若干低くなり、逆に道路脇の雪山が小さくなったことから「道幅の確保・交差点の見通し」の満足度が若干高くなっています。

しかし、この取り組みは、降雪状況に強く左右され、費用対効果の検証や地域住民の意見を十分に考慮しながら、検討していかなければならないと思われます。

### ③ 交差点排雪の強化

懇談会及びアンケートでも特に要望が多く、関心の高い取り組みでしたが、排雪強化実施の有無による大きな違いは見られておりません。これは、事業開始後3年間が特異な気象であったこと、また、排雪強化を実施しても、その実施箇所が少なく、地域住民が「交差点の見通しが改善した」と認識するまでには至らなかったものと考えられます。

### ④ 迷惑駐車撲滅に向けた合同パトロール実施

路上駐車の実態は、8割程度が「ある」との回答で、地域と行政と一緒にパトロールを実施しているが、住宅敷地内の駐車スペースが少ない問題や近隣に駐車場が無い状況から、このパトロール実施による迷惑駐車は減少傾向にあるが、明確な違いは見られず、合同パトロール自体の効果が現れるには時間が必要な取組である。

しかし、地域住民自らがチラシ配布をするなど、パトロール以外の啓発活動を行っている地域もあることから、迷惑駐車撲滅のため、今後三者の協働により、この取り組みを継続していくことが必要と思われます。

## 6. おわりに

市民要望の高い生活道路の除排雪について、市民満足度を向上させていくためには、地域の特性に応じた除排雪等を住民と共に考え、共に行動することが重要であり、今後は、より多くの人に参加できるような企画・イベントなどを取り入れた

手法も考えております。

これらのことから、「市民自治」「市民との協働」の考えに基づき、この事業を継続的に推進・拡大していきたいと考えています。